

2006 年秋（9～11 月）の東北地方の天候

- ・ 高温
- ・ 台風や発達した低気圧の影響による大雨・強風

（１）2006 年秋（9～11 月）の概況

この期間、寒気の南下がほとんどなく移動性高気圧におおわれ、晴れて暖かい日が多かった。特に 11 月上旬は顕著な高温となった。一方でしばしば台風や低気圧の影響を受け大雨となった日があった。9 月には中旬に九州に上陸したあと日本海を北上した台風第 13 号、9 月下旬と 10 月上旬には太平洋岸を北上した低気圧、10 月下旬には日本海を東進した低気圧、11 月下旬には本州の南岸沿いを進む低気圧の影響でまとまった雨となった。特に 10 月上旬の 6～8 日にかけての低気圧は南からの暖湿流を伴い発達しながら太平洋岸を北上し、それによる強風・高波で漁船が座礁した。このとき大船渡で最大瞬間風速 40.2m/s（10 月 7 日）を観測した。

3 か月平均気温は東北地方で高い。3 か月降水量は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。3 か月間日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。

（２）各月の天候経過

9 月：東北地方の北に中心を持つ高気圧におおわれることが多かったため、東北日本海側を中心に晴れの日が多かった。月平均気温はほぼ平年並だったが 10 日前後の周期で気温が変動し、寒暖の差が大きかった。月降水量は東北日本海側北部を中心に平年を下回ったところが多かった。

18日は台風第13号が日本海を北上するのに伴い、前線が北上し東北太平洋側を中心に大雨となった。また、27日は低気圧が発達しながら三陸沖を北上したため、東北太平洋側を中心に大雨となり、浸水害などの被害があった。

月平均気温は東北北部で高く、東北南部で平年並。月降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並。月間日照時間は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。

10 月：天気は数日の周期で変化し、非常に発達した南岸低気圧や寒気を伴った気圧の谷などの影響で、上旬の 6～7 日にかけてと下旬の 23～24 日にかけて天気が大きく崩れた。中旬は高気圧におおわれ晴れの日が多かった。9 日に 2000m 級の山で初冠雪が見られたが、それ以外の山岳では平年より遅れた。

月平均気温は東北地方で高い。月降水量は東北地方でかなり多い。月間日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。

11 月：冬型の気圧配置となる日は少なく、低気圧や気圧の谷が短い周期で通過することが多かった。このため気温は高く経過し、初霜・初氷・初雪などの寒候期現象および山岳の初冠雪の観測は、ほとんどの観測地点で平年よりも遅かった。

上旬は高気圧におおわれ晴れの日が多く、東北地方の北を通過した低気圧に向かって南風が吹き込んだために高温となった。中旬以降は、低気圧や気圧の谷が短い周期で通過し、通過後は一時的に冬型の気圧配置となったが、強い寒気の南下はなく長続きしなかった。東北日本海側では中旬以降は平年と同様に曇りや雨の日が多くなった。20～21 日および 27～28 日は、本州の南岸沿いを進む低気圧の影響で東北太平洋側を中心にまとまった雨となった。

月平均気温は東北地方で高い。月降水量は東北地方で多い。月間日照時間は東北北部で少なく、東北南部で多い。

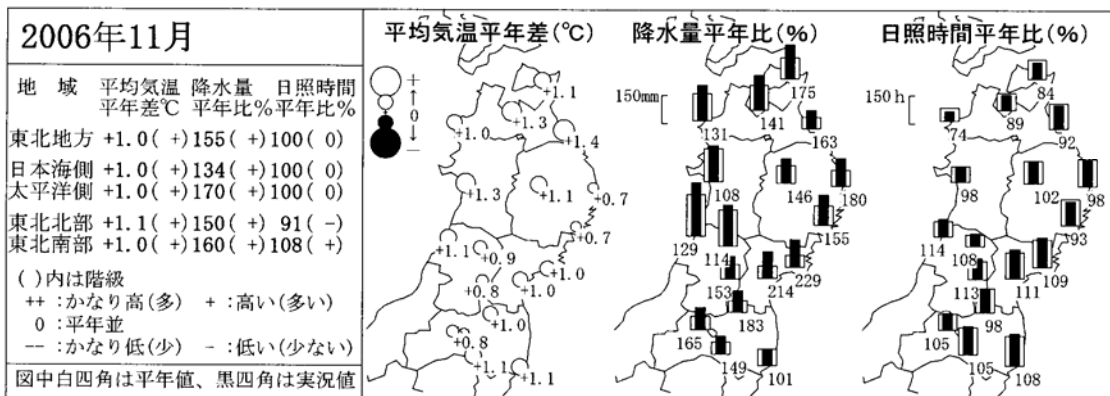
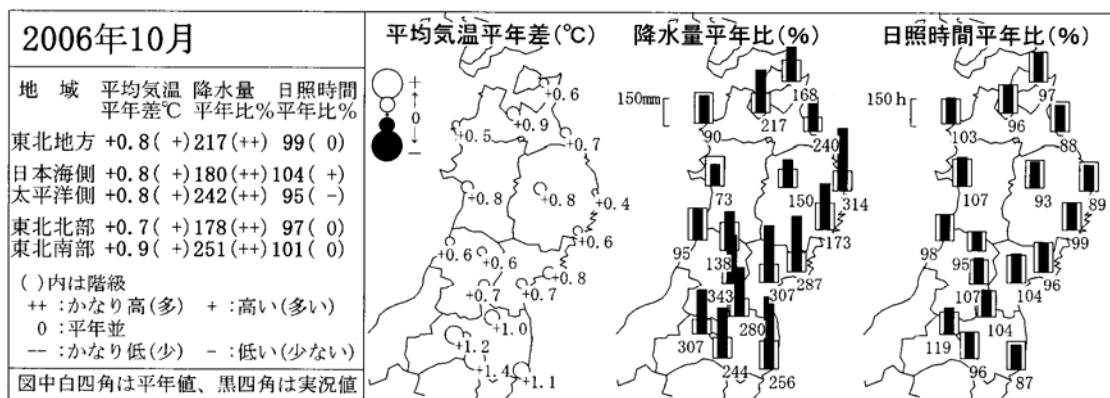
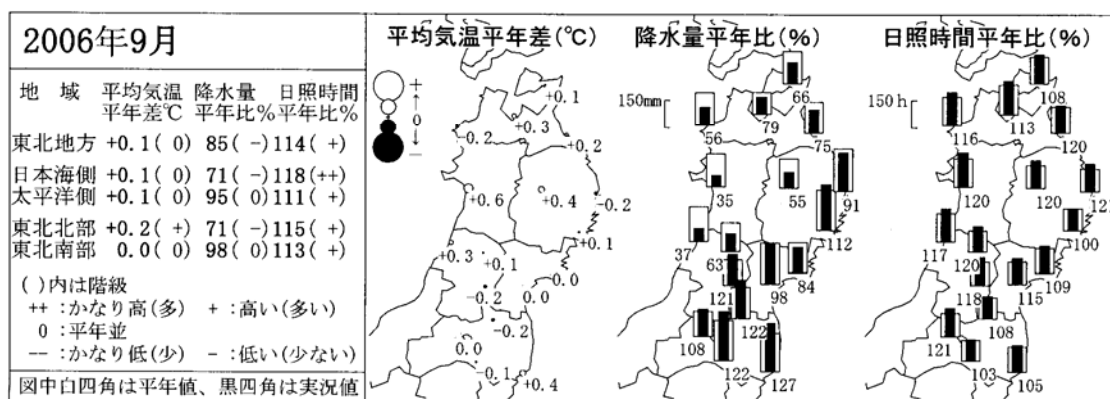
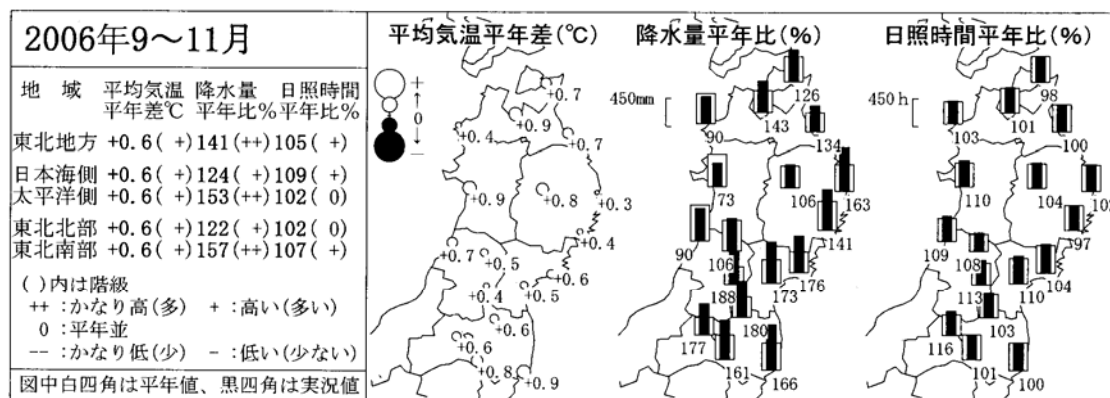
注）気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。

細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は 1971-2000 年です。階級区分については、3 ページ目脚注を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2006 年秋 (9~11 月) の季節・月平均 (合計) 値の平年差 (比)



平年値の統計期間は1971~2000年。

注) 東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津
 東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り
 東北北部：青森県、秋田県、岩手県
 東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2006 年秋 (9~11 月) の気候表

地 点 名	平均気温 (平年差) 階級	降水量 (平年比) 階級	降水日数 ≥1mm	日照時間 (平年比) 階級
	(℃) (℃)	(mm) (%)		(h) (%)
青 森	13.5 (+0.9) +	509.5 (143) +	35	408.8 (101) ○
深 浦	13.7 (+0.4) +	440.5 (90) ○	35	372.5 (103) ○
む つ	12.8 (+0.7) +	510.0 (126) +	37	401.1 (98) ○
八 戸	13.4 (+0.7) +	411.0 (134) +	26	442.2 (100) ○
秋 田	14.6 (+0.9) +	379.0 (73) -*	38	426.3 (110) +
盛 岡	12.7 (+0.8) +	369.5 (106) +	27	408.5 (104) +
大 船 渡	14.3 (+0.5) +	654.0 (141) +	24	393.8 (97) ○
宮 古	13.4 (+0.3) ○	694.5 (163) +*	27	432.4 (102) ○
仙 台	15.3 (+0.5) +	663.0 (173) +*	30	451.7 (110) +
石 巻	14.7 (+0.6) +	585.0 (176) +*	32	460.7 (104) +
山 形	13.8 (+0.4) +	547.5 (188) +*	33	402.3 (113) +
新 庄	13.0 (+0.5) ○	528.0 (106) ○	38	301.2 (108) +
酒 田	15.4 (+0.7) +	524.0 (90) ○	44	407.1 (109) +
福 島	15.4 (+0.6) +	589.5 (180) +*	28	394.3 (103) ○
若 松	14.0 (+0.6) +	504.0 (177) +*	32	386.6 (116) +
白 河	14.1 (+0.8) +	633.0 (161) +*	31	407.1 (101) ○
小 名 浜	16.9 (+0.9) +	742.0 (166) +*	29	450.7 (100) ○

(注) 1. 平年値は 1971~2000 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971~2000 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が 10 個ずつになる)ように決めた。

また、値が 1971~2000 年の観測値の上位または下位 10%に相当する場合には階級の「+」に * を付加した。この場合には

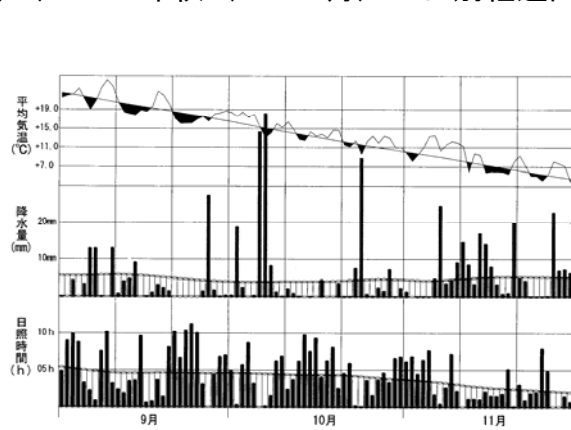
かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

と表現できる。

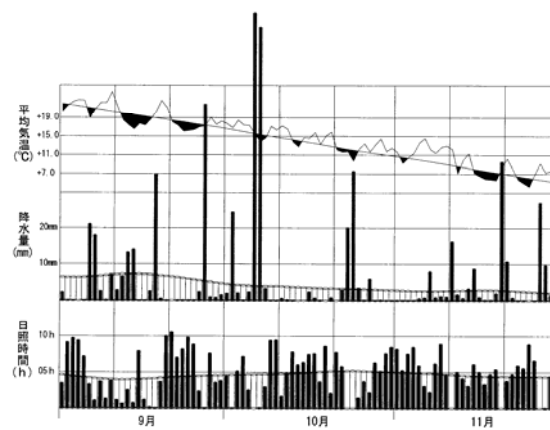
3. 値の横に) や] がある場合には、3 か月別値を求める際に使用したデータ(月別値)に欠測等が含まれていることを示す。) 付きの値(準完全値)は通常のものと同様に扱うことができるが] 付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計月数(統計に用いた、品質が十分な月別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、月別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2006 年秋 (9~11 月) の日別経過図



＜東北日本海側＞



＜東北太平洋側＞

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均(気温:実線、降水量・日照時間:黒い円柱と白抜き円柱)

(6) 2006 年秋 (9～11 月) の極値・順位の更新

(季節平均気温、季節降水量、季節日照時間の 3 位以内のみ)

3 か月間降水量 多い方からの極値・順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	統計開始年	平年値 mm
2 位	若松	504.0	177	510.9 (1958)	1953	284.8
	山形	547.5	188	575.8 (1917)	1891	291.1

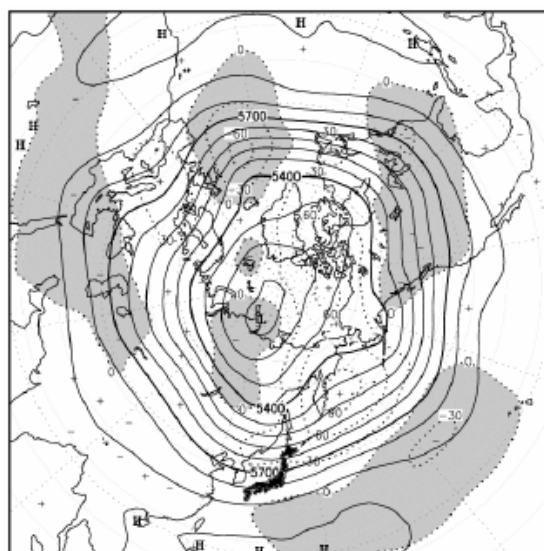
(7) 各月の極値更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間の 1 位のみ)

無し

(8) 北半球の大気の流れ

9 月 1 日～11 月 28 日の平均 500hPa 高度・平年偏差図を見ると中央シベリア付近は弱い負偏差となったが、カムチャツカ半島からアリューシャンにかけては顕著な正偏差が広がり、日本付近から中国大陆にかけても広く正偏差となった。9 月は北からの高気圧に覆われることが多かったため気温はほぼ平年並となったが、10 月から 11 月にかけては日本付近への寒気の南下がほとんどなく、気温の高い日が続いた。



2006 年 9 月 1 日～11 月 28 日の平均 500hPa
高度・平年偏差図

等高度線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差